

知事コメント

本日（3月16日）、国土交通省の社会資本整備審議会道路分科会事業評価部会において、東海環状自動車道の三重・岐阜県境間（北勢IC（仮称）～養老IC間）の開通見通しを令和8年度（2026年度）とすることが示されました。

令和9（2027）年にはリニア中央新幹線の品川・名古屋間の開業が予定されており、スーパー・メガリージョンの形成による巨大経済圏や交流圏の創造が見込まれ、中京圏発展の最大のチャンスが訪れます。中京圏を広範囲に連絡し、広域交流をもたらす東海環状自動車道が、リニア中央新幹線の開業に先がけて全線開通することとなる今回の公表は、大変意義深いものと考えています。

また、本区間の開通により、三重県と岐阜県が初めて高速道路でつながることとなります。このことにより物流面では、岐阜県大垣市から四日市港へのアクセス時間が開通前の約100分から開通後には約50分と半減するなど岐阜県西濃地域からのアクセス向上による四日市港の利用促進が図られます。また、岐阜県と三重県の観光地がつながることで、さらなる観光交流の活性化も期待されます。

特に、令和7（2025）年からは、令和15（2033）年の神宮式年遷宮に向けた諸祭や行事がスタートしますが、北陸や岐阜方面と高速道路一本でつながることにより、多くの方が三重県を訪れるきっかけにもつながります。

三重県では、いなべ市やいなべ市内の6企業（（株）デンソー大安製作所、トヨタ車体（株）いなべ工場、（株）神戸製鋼所大安製造所、太平洋セメント（株）藤原工場、ヤマザキマザックマニュファクチャリング（株）いなべ製作所、豊田合成（株）いなべ工場）と東海環状自動車道の早期整備を求める企業の声を直接国に届ける要望活動に取り組んできたことも今回の公表につながったと考えており、関係者の皆様に改めて感謝いたします。

また、本県としても東海環状自動車道整備の財源確保のため、高速道路を賢く使う取組として中京圏の高速道路料金体系の見直しを国に要望してきたところ、令和2年2月には、中京圏の高速道路料金に関する具体方針（案）が示され、本日、開通見通し公表の運びとなったこと、大変感謝申し上げます。

早期開通に向けては、工事に時間がかかる県境部のトンネルに早期着手頂くとともに、一日も早い東海環状自動車道の全線開通に向けて、引き続き、関係者の皆様としっかりと取り組んでまいります。

令和2年3月16日

三重県知事 鈴木英敬